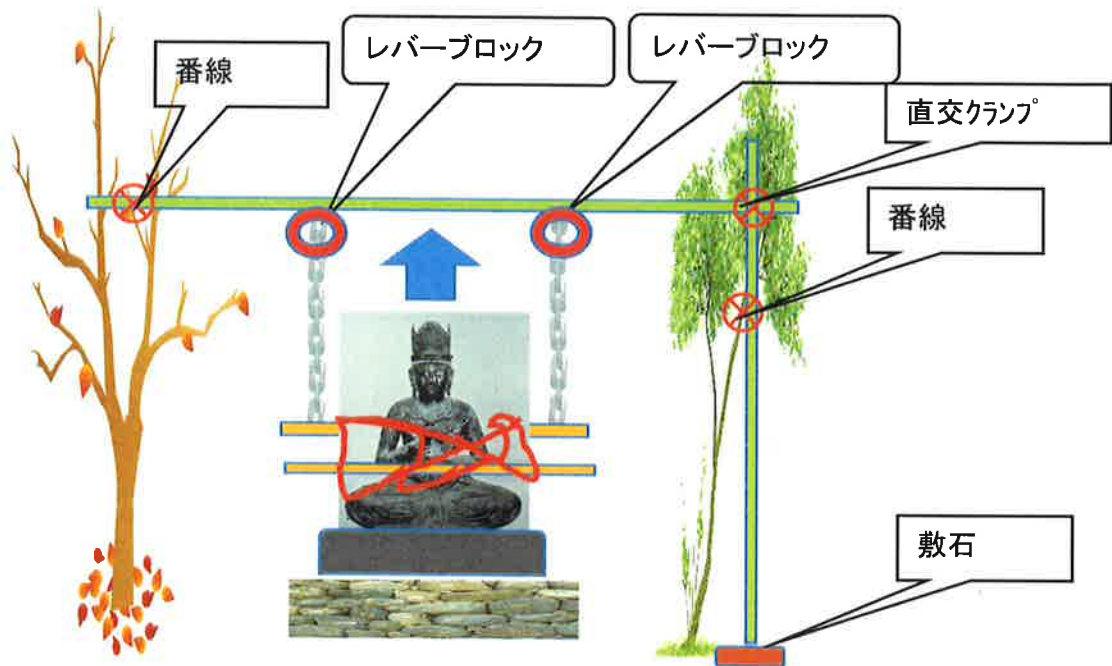


## 1 大日如来像上部を持ち上げる

大きさ：高さ1500mm 横幅760mm

重さ：60～70kgf

- ① 大日如来像の左右の檜に横棒を渡す地上2.4mの高さ  
但し、向かって右側の檜は細いため縦に柱を立てる必要がある。



単管パイプ 2.1m：1本、1.2m：2本、直角クランプ：1個、番線

重量 単管パイプ1m=2.73kgf

梁用単管パイプの左側は檜の枝に番線で止める、右側は垂直に立てたパイプに直角クランプで固定する。

垂直のパイプは右側の檜の幹に番線を巻き付け倒れ止をする。

垂直パイプの地側には平らな石を敷き荷重による沈降防止とする。

## ② 大日如来像の吊上げ

像は添え木に現地のザイルで固定する。

固定後、添え木の左右両端を吊上げ箇所として梁のパイプに吊下げチェーンブロックで巻き上げる。

※揚程が足りないため添え木案で考えた。

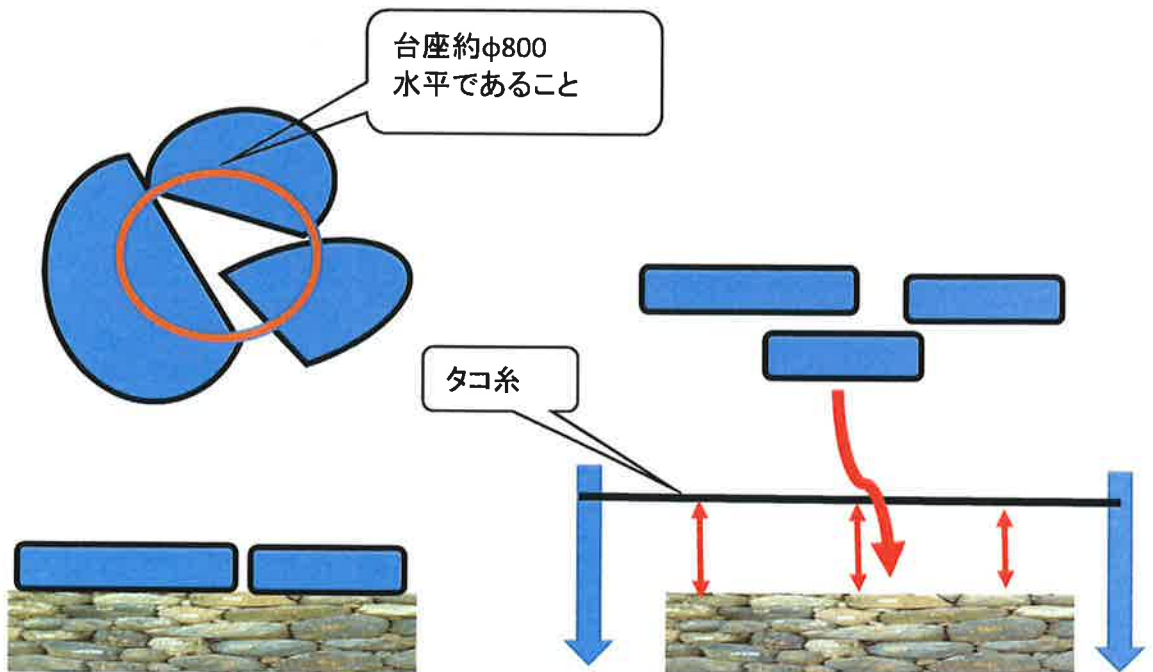
必要工具：0.2 t 程度のチェーンブロック2個（模索中）

## ③ 像は吊上げたままで基礎部の補修を行う。

台座部は比較的軽量であるため2～3人で作業範囲外に移動し一時保管。

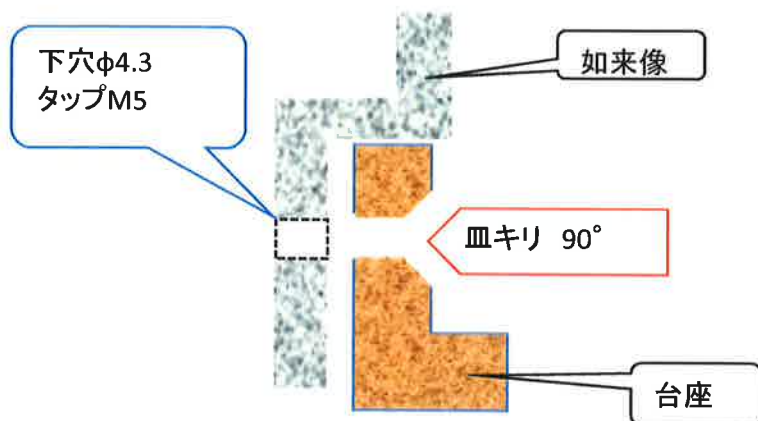
2 基礎部の補修  
台座部下部の直径：約800mm

- ① おおよその構想  
現地調査時に平たく大きめの石が3個確認。  
この石3個は円状に敷かれて台座が置かれていた痕跡が見受けられた。  
今回、補修に際しても過去の姿を復元すべく平らな石を置けるように下部に石垣を積み上げて部分的にコンクリートで補強する。
- ② 水準（水平度）  
透明ホースに水を入れ両端の水位で水平度を確認する。  
左右と前後に杭を打ちホース内の水位（高さ）に釘を打ちタコ糸を張る。  
タコ糸から石積み上面との寸法差で水平を確認する。
- ③ 石積みの広さ  
平らな石3個を組み合わせた大きさを測定しておく。
- ④ 石積み高さ  
平らな石3個が水平に載ることを満たせばよいが、広さは現地で相談。
- ⑤ 排水  
降雨で石積みの周囲の土等は流失の可能性大。  
コンクリートで固めた後、外周に栗石の考え方で現地調達石を投入。



3 台座と如来像の留め  
 台座と如来像の隙間確認を失念のため、長いめの皿ビスで対応する。  
 台座にφ6mmの穴が3ヶ所あったが完全な皿形状ではなかった。

- ① サイズは既設品はw1/4だと思うがM5x30Lに変更して現行より横に10mm程度回転しφ4.3mmにて穴あけしハンドタップM5にてねじ切り加工する。
- ② 台座側はM5の皿キリ外径φ10mm角度90°に加工しておく。



上記で必要となる部材リスト

符号	工具・部品名	寸法	数	重量	備考(担当)	
					調達	荷揚げ
1	単管パイプ	φ48 x 2100	2	11.5	三井	三井
2	番線		10			
3	しの		2			
4	バ-ブロック	0.25 t	2	3.6	三井	
5	ハンマー	大小	各1			
6	直角クランプ	φ48	2	1	三井	
7	鉄工ドリル	φ4.3程度	2			
8	鉄工ドリル	φ10皿用90°	1		三井	
9	充電式電気ドリル		1			
10	透明ホース	約2m	1		三井	
11	タコ糸	20m	1			
12	杭	1.0m	4			
13	ハンドタップ	M5	2			
14	タップハンドル	M5対応	1			
15	皿ビス	M5x30L (ステンレス)	5		三井	
16	⊕ドライバー		1			
17	コンベックス	3.5M	1			
18	単管用吊金具	φ48	2			
19						
20						
21						
22						